

うした地域的な制約が、「競争」へのモーメントと「公益性」のモーメントのどちらに傾くのか、これらが互いに拮抗しながらどのように類型差につながっていくのか、さらに分析を深めたいと考えている。

介護ネットワークの形成を探ることは、最終的には「地域ケアシステム」をどう構築していくかという枠組みの中でとらえなければならない。この地域ケアシステムをめぐることは、自助努力的な政策基調があり、介護保険はその代表であるといえる。しかし、その一方で地域ニーズの多様化に応じた住民密着を強める、「地域福祉運動」ともいべき流れがあることも見逃してはならないであろう。中山間地においては、後者の住民参加型福祉のほうが有利であると思うからである。

中山間地の厳しい条件は、介護ネットワークの形成を余儀なくする。しかし、その過程では実務者の連携が実績として蓄えられていく。介護事業所と利用者間でコミュニケーションがくり返されていく。それを土台として、地域住民は介護サービスを実際に利用し経験を深めることで、制度利用の長短を見抜く力を身につけることになる。それが道しるべとなり、自らが地域の政策づくりに参加していくための行程となるであろう。

近年のこうした動きを捉えて「民主的効率性」と評価する論者もいる。いかに総合的な地域ケアシステムを構築するのかにあたっては、現時点ではその端緒であるにしても、中山間地域での介護ネットワークの形成が果たす役割は大きい。

調査で訪れたS町やS村では、厳しい社会資源の条件を必死に切り抜けようとする姿が印象的であった。字単位での健康・介護予防活動への取り組み、医療サービスの不足を介護保険の徹底利用でカバーするなど地域をあげて取り組んでいる。それは、過疎のいっそうの深化を物語るものであるという現実的な見方もできようが、私は緑深い山々を眺めな

がらこうした「公益性」のパスを新しい農村福祉のシステム構築に生かせないだろうか、との思いをいっそう強くした。

ますます増えるであろう高・高齢化率の農村。米自由化をはじめWTO体制下の農業情勢。経済基盤が地域ごと揺さぶられているばかりでなく、農業者年金制度の後退などで老後生活の不安材料は増すばかりである。こうした中山間地の農村地域に、限界地だからこそその介護や福祉の新しい方向性を見つけ出せないかと思っている。

(熊本県熊本市・リハビリ介護研究所)

『わがママ倶楽部』奮闘中!!

及川 久仁江

はじめまして！

私は、岩手県南部の内陸部に広がる胆沢平野にある、【水と緑と散居のまち】^{いさわちやう}胆沢町に住んでいます。私自身、“うん十年”この胆沢町から一步も出ることなく過ごしてきましたが、現在は夫（サラリーマン1人）、子ども（中学生と小学生の男の子2人、小学生の女の子2人）、そして私の父母、の計8人家族でにぎやかな毎日を過ごしています。我が家は、米と花卉（切り花）を栽培している、いわゆる第Ⅱ種兼業農家ですが、米価なども年々下がってきており、農業だけで生活するのは難しくなってきたなあと感じているところです。（というわけでもないのですが、我が家では、馬屋を改築し、農家体験宿泊ができるようにしました。興味のある方は、ぜひ一度遊びに来てください。）

自己紹介や宣伝(?)はこのくらいにして、今回は、私たち子育て中のお母さんたちで作った自主グループ『わがママ倶楽部』の活動などを紹介したいと思います。

～きっかけ～

6年ほど前、グリーンツーリズムの先進地であるヨーロッパへの研修に参加しました。このとき、山形県庄内地域のお母さんチームと仲良くなりました。彼女たちは、農業法人を立ち上げ、自分たちでおもちの加工販売やヘチマ水の生協販売などを手掛けており、これからはグリーンツーリズムも行っていきたいということで、そこで貯めたお金でこの研修会に参加していたのです。彼女たちの話を聞いているうちに、私も何かやってみたいと思い、帰ってきてからも“どんな風に始めればいいんだろう？”などといろんな人に相談してはみたものの、しばらくはスタートを切れない状態にありました。

このとき、更にもう一つの出会いがありました。今度は「あるがままに生きる」という

本です。そこに書いてあった「今のままでいい。今できることから始めればいい。」という言葉に従い、とりあえず今できることからスタートしたのです。

～スタート～

近所のお母さん8人に「子育てグループを作ろうよ!」と声を掛け、1999年9月9日午前9時に参加者9人による結成集会を開きました。

まず「わがママ倶楽部の5年計画」をみんなで話し合って作ることから始めました。自分たちのやりたいことをひとつにまとめ、これを自分たちの目標とすると同時に、多くのお母さんを参加させるためのPR誌にもしました。



～いま～

あれから4年目に入っていますが、本当にいろんなことがありました。世間知らずのお母さんがやることですから、いろんなところからお叱りを受けたり…、世間とはとにかく家庭の冷たい風を感じたり…、ときには悔しさに眠れない夜もありました。「社会で独り立ちできない女と、家庭で独り立ちできない男」という言葉がありますが、この言葉が身に滲みた日々でした。

ただ、こんな中でも、グループのみんなが一つになり熱い思いを持っていると、だんだんと優しい風が吹いてきて、まわりの方々の理解と協力が増えてきました。

今振り返ると、いろんな人と出会い、いろんな事にふれ、そのときどきを仲間と分かちあえる幸せそのものが大切だと思います。

～これから～

来年は最初に立てた5年計画の5年目にあたります。計画上は「農家レストラン」となっていますが、幸運にもどうにかその目標が達成できそうな状況で、来年3月までには開店させようと、今みんなで店の設計やメニューを考えています。（またまた宣伝ですが、オープンした際にはみなさまご来店ください。）

わがママ倶楽部の一番大きな目標として、「仲間といつまでもこの町で手と手を取って、元気に生きて死んでいく。」というのがありますが、いつまでも発展進化中の「わがママ倶楽部」でありたいと思っています。

（岩手県胆沢郡・農家レストラン経営）

平成 15 年度駐村研究員会議のご案内

日 時：平成 15 年 1 月 30 日（金）午前 10 時 30 分から午後 5 時まで

場 所：農林水産政策研究所 第 3 会議室（東京都北区西ヶ原）

テーマ：「農業法人経営をめぐって ——地域との関係を踏まえて——」

【趣 旨】

農家数が減少する中で、農業経営の法人化が進んでいる。一方、農協合併や市町村合併も進行している。このような状況を踏まえ、法人化の経緯、農業法人経営の現状・課題・見通しおよび地域における位置付けと意義、さらには農協や地域社会との関係について、駐村研究員の報告をもとに検討を行う。

報告者：梶川耕治（広島県） 片山元治（愛媛県）
糸賀盛人（島根県） 西田純一（北海道）

＊詳細は、後日、ホームページ等でお知らせします。